

都市と建築のブログ

～魅力的な都市や建築の紹介と
その3Dデジタルシティへの挑戦～

大阪大学大学院准教授
福田知弘



Vol.1 大阪：「水の都」を再び目指して

はじめに

福田知弘氏による「建築と都市のブログ」を新連載！併せて、フォーラムエイト UC-win/Roadサポートグループが福田氏の紹介する都市や建築の3Dデジタルシティ・モデリングにチャレンジします。どうぞ、お楽しみください。

●水都再生を目指して

記念すべき第1回は、私にとって身近な大阪市を取り上げたい。かつて「東洋のベニス」「水の都」と謳われた大阪は今、21世紀型の水都を目指し、民の力を中心に再生の動きを加速させている。ここで、水都再生とは、道頓堀や八軒家浜に見られるような新たな船着場や都市再開発といったハード面での整備だけではなく、市民や観光客が水に親しめるような仕組みづくりといったソフト面での整備を指している。いくつかをご紹介しよう。

●北浜テラス

北浜テラスは、大阪ではじめて実現した川床。行政、NPO、店舗という3者が水都再生に向けたコンセプトを共有し、行政=規制緩和、NPO=実現スキーム立案と川床設計、店舗=川床代投資という役割を担い、実現に向けて最大限に努力したコラボレーションの結晶である。



▲図1. 北浜テラス

【プロフィール】 1971年兵庫県加古川市生まれ。大阪大学大学院准教授、博士(工学)。環境設計情報学が専門。高松市4町パティオデザイン、近江八幡市のまちづくり、台湾Next Gene20など、国内外のプロジェクトに関わる。安藤忠雄建築展2009水都大阪1/300模型制作メンバー、NPO法人もうひとつの旅クラブ理事、大阪旅めがねエリアクルー。「光都・こうべ」照明デザイン設計競技最優秀賞受賞。著書「VRプレゼンテーションと新しい街づくり」。ふくだぶろーぐは、<http://y-f-lab.jp/fukudablog/>

掘など、16エリア・17コースに上る。ツアーアの企画段階では、各エリアに詳しい「エリアコーディネーター」がツアーコースを作成。そして、プロのエリアクルーが毎週ガイド。実は私も中之島と大正コースのエリアクルー。

都市そのものを観光資源としたまちあるきツアーアはロンドンなどで盛ん。我が国では、長崎さるくの成功が記憶に新しい。旅めがねの最大のポイントは、ゲスト(旅人)に大阪を紹介するだけの観光の側面ではなく、まちづくりの側面を多く含むことである。具体的にいえば、大阪を愛する市民がエリアクルーに応募し、研修を受ける。そしてエリアクルーは、我が街の魅力を自分なりに掘り下げ、誇りを持ってゲストを案内。こんな風に、街について考える市民がどんどん増えていけば。

旅めがねは、水都大阪2009イベント終了後も永続的に実施する予定である。

●安藤忠雄建築展2009

最後に、「対決。水の都 大阪vsベニス 安藤忠雄建築展2009(09年5月23日～7月12日)」を。本展覧会は、大阪ならではの水の風景を取り戻そうという建築家・安藤忠雄氏の想いが存分に込められている。主役は、全長20mの巨大な模型(制作:安藤忠雄建築研究所、大阪大学)。都島区桜ノ宮から大川を下り、堂島川・土佐堀川が再び合流する西区川口まで、6kmに渡る中之島一帯を1/300スケールで作成した。

巨大模型は、大阪の街並みや再開発計画を再現すると共に、世界最長の桜並木・沿川建物の壁面緑化・高さ30mの大噴水・水上に浮かぶプールといった安藤氏の提案が盛り込まれている。印象的だったのは、見に来られた方が模型の前で建物や地域を指差しながら話し込んでいる姿。おそらく、過去・現在・未来の中之島や



▲図2. 大阪旅めがね(中之島コース)



▲図3. 安藤忠雄建築展2009 水都大阪巨大模型

●大阪旅めがね

大阪旅めがねは、水都大阪の魅力を再発見するクルーズ＆ウォークプログラム。より詳しく説明すれば、従来型の名所旧跡・コテコテ大阪を巡るツアーではなく、地域の暮らしに根ざした大阪のリアルな魅力を、川巡り・まちあるき・ジモティとの交流・体験を通じて伝えようというもの。09年8月現在、毎週案内しているエリアは、中之島、北船場、大正、大阪城、天満橋、道頓堀、新世界、鶴橋・桃谷、野田、空堀・松屋町、天満、京橋、寺町、九条、福島、土佐堀・江戸堀、京町

水都大阪に思い巡らせていてことだろう。

巨大模型は、10月中旬までは大阪市役所ロビーで、その後は川の駅「はちけんや」で展示される。

●ITで民の力をエンパワーメント！

このような人間味溢れる取り組みに対し、ITやVRはどのように関わられるのだろうか。

模型は、ヒューマンスケールを超越した都市を、人間が鳥の目から眺めるのに適したツールだ。全体像を直感的に掴むことができる。そしてその存在は芸術的ですらあり、感性に訴えるものがある。その一方で、アイレベルで確認すること、沢山の代替案を検討すること、見えない情報を可視化すること、人々のアクティビティを表現することなどを、模型は不得手としている。この点は、

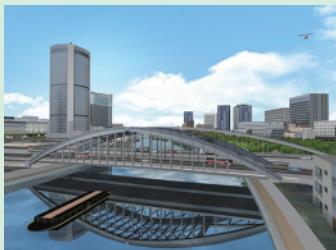
VRをはじめとするデジタルツールが得手とするところである。なので、現時点においても、模型とデジタルツールの互いの良さを活かしたり、互いの欠点を補い合ったりしながら、都市を考える面白いツールを色々と創ることができる。民の力は確かに動き出している。しかし、全体からすれば、個々の動きはまだ小さく、大多数の一般市民にはまだまだ見えていない。これらの動きを可視化していく努力も不可欠だ。また、民の力が高まるほど、都市と市民とを結びつける場が益々求められてくることだろう。これらの実現には、建築・都市・ITの専門技術が一役も二役も担えるのでは？

大阪では、今まさに「水都大阪2009」が開催中。あなたも民の力を直に感じられてはいかがでしょう。

3Dデジタルシティ・大阪 by UC-win/Road

UC-win/Roadによる3次元VR（バーチャルリアリティ）モデルを作成したものです。フォーラムエイト大阪支社事務所のあるOAPタワー周辺に大川、銀橋などが配置された水辺空間を作成しました。大阪環状線や交差点に交通を設定、大阪城モデルの配置、花火を可動モデルで実行させてみました。

■UC-win/Road WebViewer ダウンロード閲覧：URL：<http://www.forum8.co.jp/download/ucwin/Road5MB/Roadweb-3.htm>



「水都・大阪」の3Dデジタルシティ・モディファイングにチャレンジ